

『ぱんぷきんネット』つなげよう!ひろげよう!こどもたちの笑顔のリレー」事業

広大な町内に子育て支援を届ける「ぱんぷきん号」が東日本大震災の被災地の子どもたちに笑顔と喜びを届ける

東日本大震災では、東北の沿岸部を中心に保育所や学童クラブなども深刻な被害を受けた。思うような活動が再開できないなか、北海道から1台の子育て支援カーが駆けつけ、子どもたちに笑顔を届けた。支援事業は2012年度も継続され、さらに距離のハンディを超えるため、活動メニューのデータベース化が図られた。

子育て支援に必要なハードとソフトを搭載した独自開発の高機能車が北海道から被災地へ

東京23区よりも広い土地に、約6500人が暮らす北海道士幌町。2000年、この町に1台の車が誕生した。総合児童施設「中士幌児童ステーション」が独自に開発した、子育て支援カー「ぱんぷきん号」である。ニーズのある場所に向き、出前による子育て支援を全町的に実施することを目的に整備された車で、車両には保育室と情報機能が搭載され、さらに屋外でのアトラクションなどに必要な機能を持たせ、従来の子育て支援活動の範囲を大きく広げることが可能となった。現在では、土曜日、休日、夏・冬休みの移動児童館としての役割も担っている。

「実は、この支援カーの最初の仕事が、完成と同時期に噴火した有珠山の被災地の子どもたちの支援活動でした」と語るのは、「ぱん・ぱん・ぱんぷきん」の代表を務める松浪智子さん。そのときのボランティアメンバーが、子育て支援カーのサポーターとして結成したのが、ぱん・ぱん・ぱんぷきんの団体としての始まりだという。

そして2011年、甚大な被害をもたらした東日本大震災の被災地の子どもたちに笑顔を届けるため、ぱんぷきん号は士幌町から東北へと3回も海を渡った。「第1次が5月20日～6月16日、第2次が8月23日～9月1日、第3次が11月7日～16日と、宮古市を基点に主に岩手県の沿岸部を訪問しました。ぱんぷきん号に自家発電機、水の浄化装置、テント、寝袋、2週間分の食料などを積み込んで出かけましたが、まさに想像を絶する灰色の世界。どこが道なのかわからないほど道路事情が悪く、目指す場所にはたしてたどりつけるのか、不安を抱えての訪問でした。でも、たどりついた保育所や小学校などでは、集まった子どもたちが大喜びしてくれました」と話すのは、ぱん・ぱん・ぱんぷきんメンバーの松浪浩之さん。



車には本やおもちゃ、ゲームなどが備えられている



訪問前に現地へ配布したチラシ

助成により継続された被災地の支援と積み重ねた活動メニューのネットによる配信

ぱん・ぱん・ぱんぷきんでは、AJOSCからの助成を受けたことで、2012年度も引き続き被災地支援活動を行った。「5月に現地訪問、8月には宮古市の子どもたちを14名招いて、こちらの子どもたちと交流する3泊4日のサマーキャンプを行いました。彼らにとっては初めての北海道訪問で、うれしかったみたいです。このとき、食料などの提供を含め、町の多くの方々が協力してくれました。10月には岩手県の社協を通して現地の保育所や児童クラブなどから、ぜひうちにもというリクエストを受け、再び出かけました。宮古市の復興祭りのアトラクションにも参加させていただきました。これからも長く交流を続けたいと思っています」と、松浪代表。

ぱんぷきん号が行く先々で子どもたちに人気があるのは、車に備えられたゲームやおもちゃ、本などはもちろん、運営当初から積み重ねてきた300コンテンツにも及ぶ子育て支援のためのソフトがあるからである。それによって、その場に集まった子どもたちの特性に合わせ、臨機応変にアトラクションを展開できる。どんな状況であれ、今日は何もできないということがないのだ。「現代の子どもたちの感性に合わせ、彼らのハートをつかむメニュー、彼らが本当に楽しめるコンテンツを常に考え、提供できるようにしている」と、松浪浩之さん。どうやって子どもたちと遊んでいいのかわからないという学童保育の指導者や先生



保育室と屋外でのアトラクションなどに必要な機能を持つ「ぱんぷきん号」は、行く先々で子どもたちに大人気

担当者より



被災地の子どもたちに今後も笑顔届けたい。

ぱん・ぱん・ぱんぷきん
代表
松浪智子さん

助成をいただいたおかげで、自分たちの力だけではできないことを実現できたことに感謝しています。子どもというキーワードがあることで、地元をはじめ、それぞれの技術を持った多くの方が協力してくれています。今後もその基本を忘れずに、さまざまな活動に取り組んでいきたいと思っています。

たちにとっても、ぱん・ぱん・ぱんぷきんの遊びのコンテンツは実に参考になるという。

そうした声に応えるため、松浪さんたちは、自分たちの持っている300タイトルに及ぶ活動メニューのデータベース化に着手。ネット配信による「ぱんぷきんネット」の構築を行った。これによって、ネットにアクセスすることで、いつでも、どこでもメニューを手に入れることができる。この事業も、今回の助成によって可能になったという。「私たちの会にとっては、いわば門外不出のメニューですが、被災地の子どもたちのためになるならばと、思い切ってデータベース化することにしました。これまでは岩手県を中心とする支援でしたが、ぱんぷきんネットの実証を踏まえ、今年からは宮城県や福島県にも支援の輪を広げたいと考えています」と、松浪代表。笑顔のリレーが東北を駆け巡ることを期待したい。



2012年度は5月と10月に保育所や児童クラブなどを訪問